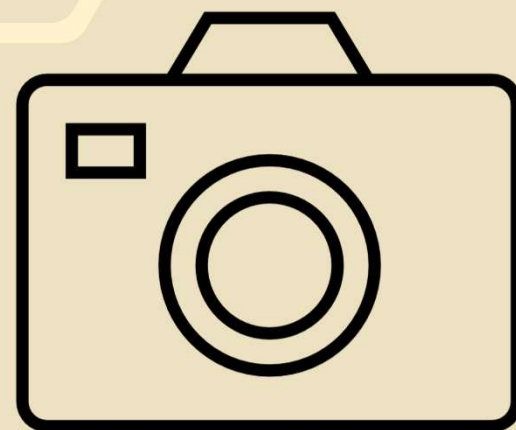


撮影診断アプリ

新潟医療福祉大学 医療経営管理学部
医療情報管理学科 寺島ゼミ

石坂 日菜里, 工藤 陽菜, 佐藤 一番,
野瀬 春希, 本多 勇翔, 宮下 野野花



アプリの機能



スマートフォンなどのカメラで撮影した身体の写真の症状をAIが診断し、どの医者に行けばいいかを奨めてくれる機能

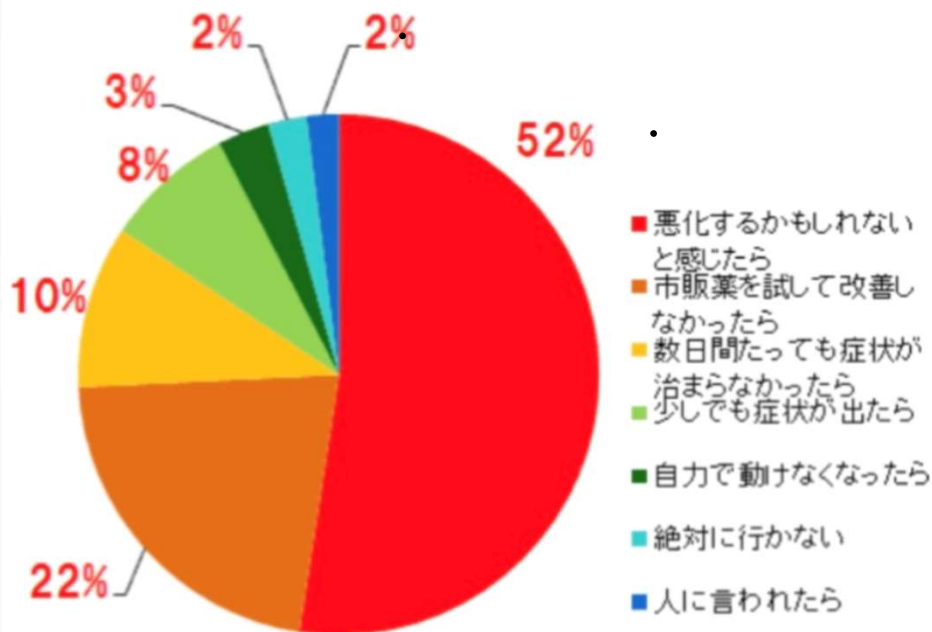


撮影した身体の部位や自身が摂取した食べ物のカロリーをAIが読み取ることで、身体の健康状態や食生活の改善策を奨め、生活習慣病予防に繋がられる機能



ビデオ通話やコメント機能を設けて、他のユーザーや医療従事者が、病気を持つユーザーの悩みに回答できたり、病院に行く前に直接話せることでユーザーを安心させることができる機能

Q 病院に行くことを決める判断基準は？※内症・外症すべての疾病を含み、自分が一番病院にかかるケースを想定して最もあてはまるものを選んでください。※日常的な通院や健康診断、持病があって定常的に通っているケースは除きます



経緯

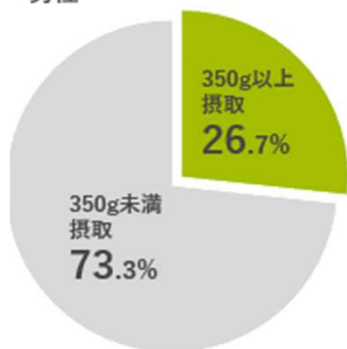
- 自分では気づかないうちに病気に罹ってしまう、調子が悪くても病院に行くほどではない。

→軽い症状のうちに病気の早期発見をしたり、予防をしたい。

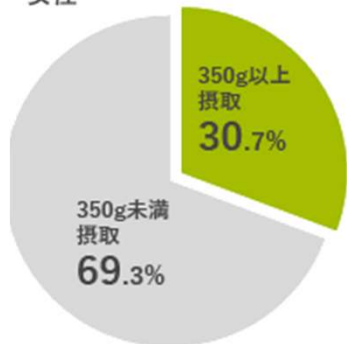
- 「少しでも症状が出たら」の段階で病院に行く人はとても少ない！

野菜の摂取状況 (20歳以上)

男性

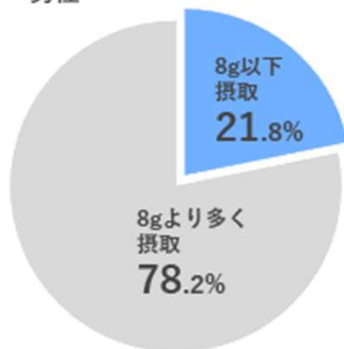


女性

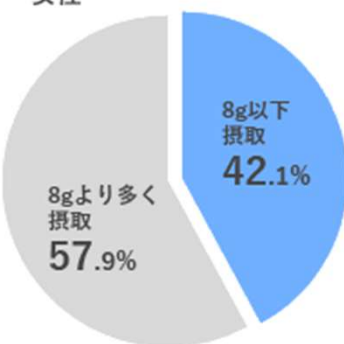


食塩の摂取状況 (20歳以上)

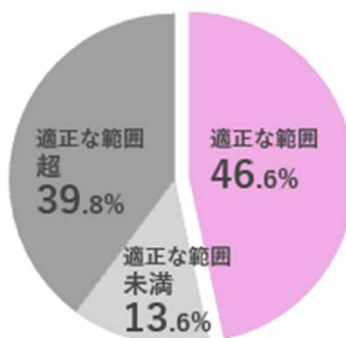
男性



女性



脂肪エネルギー比率の状況 (30~69歳)



(参考)

日本人の食事摂取基準 (2015年版)
目標量 脂肪エネルギー比率
1歳以上: 20%~30%

他にも...

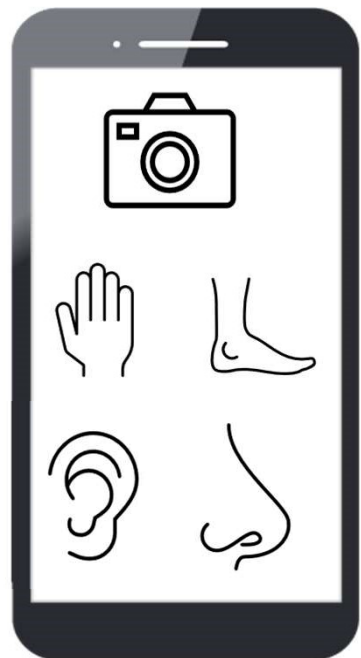
- 適切な量とバランスの食事をしている人は、とても少ない。
- 自分だけでバランスのとれた食事をするのは難しい!
- 男性の方が女性よりバランスのとれた食事がとれていない。

ターゲット

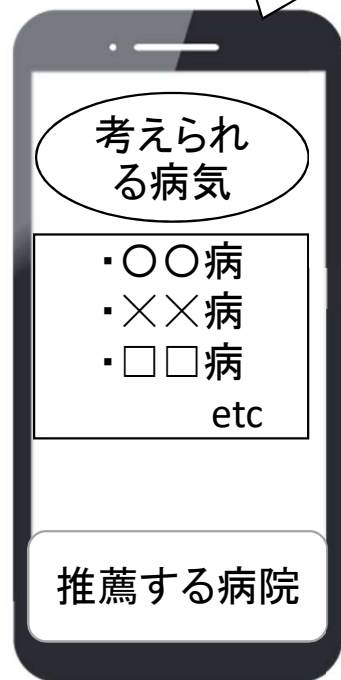
- どの病院に行けばいいかわからない人
- 病院に行く時間がない人
- 病院に行くほどではないが引かかる症状がある人
- 自分の食生活が気になる人



身体の写真撮る



AIが診断



指定された病院へ



他のユーザーや医療従事者に相談



病院へ





食べた食品の
写真を撮る



AIが写真のカロ
リー計算と不足
している食べ物
を推奨



改善して健康維持へ